

担当：坪井 俊

<http://faculty.ms.u-tokyo.ac.jp/users/tsuboi/zokuron2017.html>

補足：

【命題】  $f: U \rightarrow \mathbf{R}$  が  $C^1$  級ならば、 $f$  は全微分可能である。

この命題の証明は、以下のものがより良いと思われます。

【証明】  $\vec{y}^k = (y_1, \dots, y_k, x_{k+1}, \dots, x_n)$  ( $\vec{y}^0 = \vec{x}$ ,  $\vec{y}^n = \vec{y}$ ) において、

$$\begin{aligned} f(\vec{y}) - f(\vec{x}) &= \sum_{k=1}^n \{f(\vec{y}^k) - f(\vec{y}^{k-1})\} \\ &= \sum_{k=1}^n \int_0^1 \left( \frac{\partial f}{\partial x_k} \right)_{(\vec{y}^k + t(\vec{y}^k - \vec{y}^{k-1}))} (y_k - x_k) dt \end{aligned}$$

である。 $\left( \frac{\partial f}{\partial x_k} \right)_{(\vec{y})}$  は、 $\vec{x}$  で連続だから、与えられた  $\varepsilon > 0$  に対し、任意の  $\vec{y}$  に対し、 $\|\vec{y} - \vec{x}\| < \delta$  ならば、 $\left| \left( \frac{\partial f}{\partial x_k} \right)_{(\vec{y})} - \left( \frac{\partial f}{\partial x_k} \right)_{(\vec{x})} \right| \leq \frac{\varepsilon}{\sqrt{n}}$  をみたすような  $\delta$  を定める。そうすると

$$\begin{aligned} & \left| \int_0^1 \left( \frac{\partial f}{\partial x_k} \right)_{(\vec{y}^{k-1} + t(\vec{y}^k - \vec{y}^{k-1}))} (y_k - x_k) dt - \int_0^1 \left( \frac{\partial f}{\partial x_k} \right)_{(\vec{x})} (y_k - x_k) dt \right| \\ & \leq \frac{\varepsilon}{\sqrt{n}} |y_k - x_k| \end{aligned}$$

ゆえに

$$|f(\vec{y}) - f(\vec{x}) - \sum_{k=1}^n \left( \frac{\partial f}{\partial x_k} \right)_{(\vec{x})} (y_k - x_k)| \leq \sum_{k=1}^n \frac{\varepsilon}{\sqrt{n}} |y_k - x_k| \leq \varepsilon \|\vec{y} - \vec{x}\|$$

(平均値の定理により)

$$f(\vec{y}^k) - f(\vec{y}^{k-1}) = \left( \frac{\partial f}{\partial x_k} \right)_{(\vec{y}^{k-1} + s_k(\vec{y}^k - \vec{y}^{k-1}))} (y_k - x_k)$$

となる  $0 < s_k < 1$  が存在することを用いてもよい。

**演習問題：**（解答等は、B5またはA4のレポート用紙等で、学生証番号、氏名を明記して翌週または翌々週に提出してください。これは受講生の権利であって義務ではありません。）

**問題 1.** (1)  $\vec{v} = \begin{pmatrix} v_1 \\ \vdots \\ v_n \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^n$  に対し、 $\|\vec{v}\| = \sqrt{\sum_{i=1}^n v_i^2}$  とするとき、

$\frac{1}{\sqrt{n}} \sum_{i=1}^n |v_i| \leq \|\vec{v}\| \leq \sum_{i=1}^n |v_i|$  を示せ。

(2)  $\vec{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}, \vec{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ \vdots \\ y_n \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^n$  に対し、 $\vec{x} \cdot \vec{y} = \sum_{i=1}^n x_i y_i$  とするとき、

$|\vec{x} \cdot \vec{y}| \leq \|\vec{x}\| \cdot \|\vec{y}\|$  を示せ。

**問題 2.** 実数  $a$  をパラメータとする関数  $f_a : \mathbf{R}^3 \rightarrow \mathbf{R}$  を  $f_a(\vec{x}) = \sum_{i=1}^3 x_i^3 + a \prod_{i=1}^3 x_i$

で定義する。ここで  $\prod_{i=1}^3 x_i = x_1 x_2 x_3$  である。

(1)  $Df_a = \left( \frac{\partial f_a}{\partial x_1} \quad \frac{\partial f_a}{\partial x_2} \quad \frac{\partial f_a}{\partial x_3} \right)$  を求めよ。

(2)  $Df_a = (0 \ 0 \ 0)$  となる点を求めよ。

(3) WolframAlpha <https://www.wolframalpha.com/> にアクセスし、

[  $x^3 + y^3 + z^3 - a x y z = b$  ] の  $a, b$  に  $-2, -1, 0, 1, 2$  などの数値を与えて、入力し、出力される等位面を観察せよ。

（携帯端末でアクセスすると360円のアプリを購入させられるところに行き易いが、[Continue to wolframalpha.com] とすれば目的のページに行ける。）

**問題 3.** ベクトル値関数  $\vec{x} : (a, b) \rightarrow \mathbf{R}^n$  で  $\vec{x}(t) = \begin{pmatrix} x_1(t) \\ \vdots \\ x_n(t) \end{pmatrix}$  の各成分  $x_i(t)$  が  $C^1$  級

であるものを考える。 $\left( \frac{d\vec{x}}{dt} \right)_{(t)} = \begin{pmatrix} \left( \frac{dx_1}{dt} \right)_{(t)} \\ \vdots \\ \left( \frac{dx_n}{dt} \right)_{(t)} \end{pmatrix}$  を  $\vec{x}(t)$  における速度ベクトルと呼ぶ。

$\mathbf{R}^n$  の開集合  $U$  上で定義された関数  $f : U \rightarrow \mathbf{R}$  に対し、 $\left( \frac{df(\vec{x}(t))}{dt} \right)_{(t)} = 0$  であること

と、 $\left( \frac{d\vec{x}}{dt} \right)_{(t)} \in \ker(Df)_{(\vec{x}(t))}$  は同値であることを示せ。さらに、 $t \in (a, b)$  に対し、常に

$\left( \frac{d\vec{x}}{dt} \right)_{(t)} \in \ker(Df)_{(\vec{x}(t))}$  ならば、 $\vec{x}(t)$  の像は  $f$  の等位面上にあることを示せ。